

SERI NEWS RELEASE

平成 23 年 10 月 21 日

財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13
アゴラ静岡 5 階
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

平成 23 年 10～12 月期 静岡県内主要産業の四半期見通し

～「10～12月期の見通し」は、『やや上昇』が3業種、『横ばい』が17業種～

□平成23年9月実施の静岡県内主要産業（20業種）の四半期見通し調査では、現在（7～9月期）の業況は、『順調』が1業種、『普通』が3業種、『低調』が11業種、『不調』が5業種と、前回6月調査からはやや改善した。

□平成23年10～12月期の見通しについては、20業種中『やや上昇』が3業種、『横ばい』が17業種となった。円高や素材価格の上昇などの懸念は残るものの、県内産業景気はここにきて東日本大震災前の水準に近づいており、底固めから反転に向かうと見込まれる。

担当：研究部 岩間

依然として冷え込み続くものの、 底固めから反転に向かう県内産業景気

(1) 業界景気の現況について

県内主要産業20業種の現在（平成23年7～9月期）の業況は、『順調』とする業種が1業種、『普通』が3業種、『低調』が11業種、『不調』が5業種と、依然として冷え込みが続くものの、前回6月調査からはやや改善した。サプライチェーン障害の影響から脱した「自動車部品」が『不調』から『普通』に2ランク上昇したほか、「工作機械」が『普通』から『順調』に1ランク、「二輪車部品」、「住宅」、「外食」、「観光・レジャー」も『不調』から『低調』に1ランク上昇した。一方、「家電量販店」が『順調』から『低調』に2ランク、「情報サービス」が『低調』から『不調』に1ランク落ち込んだ。

(2) 業界景気の見通しについて

平成23年10～12月期の見通しは、「自動車部品」、「大型小売店」、「情報サービス」の3業種が『やや上昇』となったほかは、『横ばい』が17業種となった。

業種別にみると、年間計画達成に向けて完成車の生産増加が見込まれる「自動車部品」が『普通』から『やや上昇』、商業施設のリニューアルオープンや新館オープンが続く「大型小売店」が『低調』から『やや上昇』、製造業向けや流通関連などを中心に案件が動き出している「情報サービス」が『不調』から『やや上昇』の見通しとなった。

このほかの17業種は『横ばい』の予想で、自動車関連の設備投資が回復し、外需が手堅く推移すると予想される「工作機械」が『順調』のまま『横ばい』が続く。また、年末に向けて水産練製品の需要増加に期待がかかる「食品・飲料」と、白物家電の落込みが予想される一方で携帯電話が端末メーカーの投入効果により前年を上回る見込みの「民生用電器部品」が『普通』のまま『横ばい』の見通し。さらに、需給バランス調整が続く「家庭紙」、「産業用紙」、「二輪車部品」、「人材派遣」や、前年の反動減が響く「住宅」、「家電量販店」のほか、「食品スーパー」、「運輸・倉庫」、「外食」、「観光・レジャー」をあわせた計10業種は、『低調』のまま『横ばい』が続く。一方、放射性物質問題が尾を引く「製茶」や、公共事業や民間需要の不透明感が続く「建設」、「リース」、また、新車の投入が少なく販売台数が低調に推移しそうな「自動車販売」の4業種では、『不調』のまま『横ばい』の見通し。

なお、半期調査業種では、復興関連で需要上積みが多少見込まれるものの、構造的に消費不振が続く「繊維」、「製材」は、ともに『低調』のまま『横ばい』の見通し。



長引く円高や欧州の財政問題から輸出環境は依然として不透明な状況が続き、原燃料価格の高騰や食材価格の上昇といった懸念も残るものの、本県の主要産業である自動車部品が回復基調に転じ、製造業全体でも底打ちの兆しがみえてきた。県内産業の景気は、ここに来て東日本大震災前の水準に近づいており、底固めから反転に向かうと見込まれる。

静岡県内主要産業の四半期ごとの業界景気の「現況」と「見通し」推移

年次		平成20年	平成21年				平成22年				平成23年			
四半期		Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ (今回調査)	
対象月(○は調査月)		10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	
現況	(業種数)	好調 ☀	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0
		順調 ○	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1
		普通 🌓	3	0	1	0	0	1	2	2	1	2	3	3
		低調 ☁	17	12	13	14	14	11	10	11	12	13	7	11
		不調 🌧	0	8	6	6	6	8	8	4	5	5	9	5
	全業種の平均階級値		2.15	1.60	1.75	1.70	1.70	1.65	1.70	2.25	2.10	1.85	1.80	2.00
	好調：5													
	順調：4													
	普通：3													
	低調：2													
不調：1														
見通し	(業種数)	上昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		やや上昇 ↗	0	1	2	1	0	0	3	1	2	0	4	3
		横ばい →	5	13	17	17	18	19	17	13	15	11	16	17
		やや下降 ↘	15	6	1	2	2	1	0	5	2	9	0	0
		下降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(9月調査であれば7~9月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(9月調査であれば10~12月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。

調査時点…平成23年9月初旬

調査対象企業…県内主要20業種(149社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、半期調査業種を除く20業種の平均値。

平成23年10～12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業種	調査項目	業界景気の現況	業界景気の見通し	静岡県内主要産業の見通し											
				生産量 (前7～9月期 対比伸び率)	売上高 (前7～9月期 対比伸び率)	生産量 (前年同期比 伸び率)	売上高 (前年同期比 伸び率)	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格の動向 (前7～9月期対比)	製品価格の動向 (前7～9月期対比)	資金繰り	受注残 (ヵ月)	
製茶		////	→	—	—	—	↘	○	供給超過	過多	→	→	普通	—	
食品・飲料		●	→	→	→	→	→	○	均衡	適正	↗	→	普通	0.3～1.0	
家庭紙		●●	→	→	→	↘	↘	○	供給超過	適正	↗	→	普通	0.1～1.0	
産業用紙		●●	→	→	→	→	→	◇	供給超過	適正	↗	↗	普通	0.2～1.0	
工作機械		○	→	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	普通	1.0～5.0	
民生用電器部品		●	→	↘	↘	↗	↗	○	均衡	適正	↗	→	普通	0.1～2.1	
自動車部品		●	↗	↗	↗	↗	↗	◎	均衡	適正	↗	→	普通	0.1～1.3	
二輪車部品		●●	→	↗	↗	→	→	○	均衡	適正	↗	→	普通	1.0～3.0	
建設		////	→	—	↘	—	↘	○	供給超過	適正	→	→	普通	2.0～6.0	
住宅		●●	→	—	→	—	↘	○	供給超過	適正	→	→	普通	1.0～3.0	
大型小売店		●●	↗	—	→	—	→	—	供給超過	適正	→	→	普通	—	
食品スーパー		●●	→	—	→	—	↘	—	供給超過	適正	→	→	普通	—	
自動車販売		////	→	—	→	—	→	—	均衡	適正	→	→	普通	—	
家電量販店		●●	→	—	↘	—	↗	—	供給超過	適正	↘	↘	普通	—	
運輸・倉庫		●●	→	—	→	—	→	○	供給超過	—	→	→	普通	—	
情報サービス		////	↗	—	→	—	→	○	均衡	—	→	→	普通	—	
外食		●●	→	—	↘	—	→	—	供給超過	—	↗	→	普通	—	
観光・レジャー		●●	→	—	↘	—	↘	—	供給超過	—	→	→	逼迫	—	
リース		////	→	—	→	—	→	—	—	—	—	—	普通	—	
人材派遣		●●	→	—	→	—	↘	○	均衡	—	→	→	普通	—	
〈特別調査 平成23年10月～平成24年3月期 半期見通し〉															
繊維		●●	→	→	→	→	→	◇	供給超過	過多	↗	→	普通	0.5～1.0	
製材		●●	→	→	→	→	→	○	供給超過	過多	→	→	普通	—	

表の見方と注意

業界景気の現況	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操業度	需給バランス	製品在庫水準	資金繰り
好調 ☀	上昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少	非常に余裕
順調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需要超過	過少	余裕
普通 ●	横ばい →	横ばい (+2～△2%) →	79～70% ◇	均衡	適正	普通
低調 ●●	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供給超過	過多	逼迫
不調 ////	下降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多	非常に逼迫

(注) 特別調査(繊維、製材)は半期ベース(4～9月期の現状と10～3月期の見通し、前期比・前年比もすべて半期ベース)。
半期調査対象企業…2業種の企業4社。